



ふたはの桂

京都府大広報 **No.182** | 2018.10

KYOTO PREFECTURAL UNIVERSITY

文学部 和食文化学科 開設 決定



京都から世界へ
次代の和食文化を担う人材を育成

特集 文学部 和食文化学科の開設 決定 … 2

CONTENTS

地域連携・地域貢献 … 4

公開講座・生涯学習 … 6 国際京都学 … 7 国際交流 … 8

各学部・研究科の取り組み

文学部 … 9 公共政策学部 … 9 生命環境科学研究科 … 10

受賞情報 … 11 イベント情報 … 11 ニューフェース … 12

<http://www.kpu.ac.jp>

特集

文学部 和食文化学科の開設 決定

「和食：日本人の伝統的な食文化」のユネスコ無形文化遺産登録（2013年）を機に、本学ではこれまで約4年にわたり和食に係る高等教育機関の開設をめざしてきました。

設置者である京都府及び関係者の皆様の御助力をいただき、本年4月末に文部科学省に届出を行い、文学部の四番目の学科として2019年4月に「和食文化学科」を開設することが決定しました。

また、「和食文化」を新しい学際領域として、本学が中心となり今年の2月19日に「和食文化学会」を設立。複数の「食」に関わる研究者や大学等がコンソーシアムを形成し、我が国の貴重な文化である「食」について学術的に深化を図る試みが始動しています。

平成29年の文化芸術基本法改正を経て正式に「生活文化」として認められた「食文化」。文化庁の移転も相まって、これからも「和食」をとりまく動きが活発になる見込みです。本学の今後の教育及び研究活動に御期待ください。



和食文化学科での学び

新学科では、文理両面から和食をとりまく幅広い教養を身につけるカリキュラムを設定。5つのカテゴリから興味あるテーマを中心に学ぶモデルを想定した科目構成となっています。

学びの動機	科目群分野	主な専門科目
<ul style="list-style-type: none"> 和食の起源など、歴史と食の関わりに興味がある 和食の背景にある歴史や文化について知りたい 本膳・精進・懐石など独自の和食文化を学びたい 	和食史学	和食の歴史 東アジアの文化交流
<ul style="list-style-type: none"> 食文化を中心とする生活文化から日本文学とその歴史を深めたい 茶道や華道、美術や工芸に興味がある 	和食文芸	仮名文字入門 和食文芸入門
<ul style="list-style-type: none"> 世界の食文化についても広く知りたい 日本の地方の多様な食文化にも触れてみたい 日本料理と関わり深いバイオテクノロジーも学びたい 	食人類学	食文化原論 米食文化論
<ul style="list-style-type: none"> 将来は、食のビジネスに携わりたい 京都の料亭などの事業経営について知りたい 食の原点となる農業にも興味がある 	食経営学	食環境をめぐる国際社会と日本 和食サービス論 地域経営論
<ul style="list-style-type: none"> 和食の神髄である「出汁」や「旨味」に興味がある 料理の「おいしい」メカニズムを探りたい 	和食科学	京料理の科学 和食材料学 和食の化学
■ 京都ならではの和食の現場で学ぶ(演習・実習) ■		
<p>★和食文化演習</p> <p>I 精進料理と禅宗寺院 / II 京野菜を栽培する</p> <p>III 茶道の文化から懐石料理を学ぶ</p> <p>IV 米、餅と酒から和食文化の多様性を学ぶ</p> <p>★和食文化実習</p> <p>I 調理学実習 / II 実学和食</p>		

■ 教員よりメッセージ

★和食文化学科が世に出す人材とは（人材育成）

京都和食文化研究センター長 宗田 好史



外国から食を求めて多くの観光客が来日し、食関連企業が我が国の食文化を掲げ海外に進出。一方、国内各地の多様な食文化を地域創生の鍵として活用する——そのようなニュースを日頃見かけられる方も多いでしょう。その現場では、更に上質の製品やサービスを提供するため「和食文化を多様な視点から理解した上で、新たな創造を生み出せる人材」が求められています。

新学科では文系・理系の枠を超えて和食を多角的に捉え、実習で料理人や生産者が何を見、何を感じているかを学びながら、能力の源泉となる深い知性と幅広い教養を磨きます。

★「和食文化学」の黎明（研究活動）

和食文化学会会長 佐藤 洋一郎（京都和食文化研究センター 特任教授）



カレーライスは何食か？ではかつ丼は？

こんな議論をしたことはないですか？実はよい答えがないのです。「和食文化学」というトータルな学問分野がないのが理由のひとつです。これではいけない、ということで、今年2月に文系、理系を越えたさまざまな分野の研究者が全国から集まり「和食文化学会」が立ち上がりました。学会では、出版、料理人と研究者の対話、農家、加工業者、行政など様々な分野の専門家が集う研究集会などを企画します。参加する研究者らは最新の研究成果を交換し、それらを授業にも反映させる活動を始めています。この学会は社会に開かれた学会にするつもりです。ご家族の皆様にもご加入いただけます。ただいまHP準備中！

■ 卒業後の進路イメージ

国内外へ
和食文化を発信する
和食文化の保護・
伝承・探究者へ

- ◆和食文化の次世代研究者（大学教員、料理学校・ホテル学校教員）
 - ◆博物館学芸員 ◆食専門ジャーナリスト
 - ◆食文化コンサルタント
- ◆食品企業や健康・観光産業などでの企画開発、商品開発
 - ◆料理店や伝統産業の経営
- ◆農業分野（アグリツーリズム、スローフードなど）
- ◆地域密着型の新事業や起業 ◆行政職員（国、地方自治体）
- ◆国際機関職員（UNESCO、FAOなど） ◆貿易関連企業など

京都と日本の
文化的価値を高める
和食文化の
クリエイターへ

■ 入試情報

現在、受験生向けに入試情報に特化したフライヤーを作成し、大学ホームページでPDFファイルを公開しています。テレメールで実物を取り寄せることもできます。

★大学ホームページ記事

<http://www.kpu.ac.jp/link/washoku-nyushi.html>

★テレメール

資料請求：https://telemail.jp/_pcsites/?des=034341&gsn=0343455



■ リカレント学習講座 京都「和食の文化と科学」

和食文化の神髄に触れ、その奥深い文化的背景を一般の方に幅広く知っていただく目的で有料の連続講座を平成26年度から毎年開講しています。

今年度は「世界の食文化と和食」をテーマに一流の講師陣をお迎えし、10月から全5回の開催を予定しています。（160名の定員を大幅に上回る申込をいただき、7月末時点で募集を終了。）



地域連携・地域貢献

地域貢献型特別研究（ACTR）成果報告会in舞鶴の開催

京都府立大学では、京都府内の地域振興や産業・文化の発展等に貢献することを目的として、府内各地で京都府立大学の教員が自治体、NPO、経済団体などと連携して、地域課題解決に向けた地域貢献型特別研究（ACTR）に取り組んでいます。平成30年3月、舞鶴市を中心に平成29年度実施したACTRの成果報告会



を舞鶴市で開催しました。

報告会では、京都府北部に係る自治体の歴史や、失われゆく貴重な文化・歴史について、広く地元の皆さんに知っていただき、次世代に向けて地域文化の保護、継承及び発展を考える機会となりました。また、京都府立大学の地域貢献活動についても知っていただき、さらなる事業推進や地域の発展につながる取組みとなりました。



<報告内容>

住民と役所とのより良い関係 —自治会の過去・現在・未来—	勝山 享（京都府立大学公共政策学部）
古代の海と古代集落	松本 達也（舞鶴市文化振興課）
丹後水軍と中世日本海流通	廣瀬 邦彦（京都府立東舞鶴高等学校）
由良川水運の成立とその展開	吉野 健一（京都府立丹後郷土資料館）
幕末～明治中期における丹後中近海航路	小室 智子（舞鶴市郷土資料館）
明治中期における丹後の海と朝鮮半島	牧野 雅司（舞鶴工業高等専門学校）
軍港都市舞鶴の誕生	上杉 和央（京都府立大学文学部）
抑留の歴史がつなぐ過去と未来	長嶺 睦（舞鶴引揚記念館）
パネルディスカッション	コーディネーター：藤本 仁文（京都府立大学文学部）

なお、平成30年度においては、以下の課題に対し、地域貢献型特別研究が進められています。

<研究課題の例>

- 丹後地域の高大連携、世代間交流を核とした文化遺産活用
- 舞鶴市大浦地区における課題対応型住民組織（地域運営組織等）の形成過程に関する研究
- 絶滅したと考えられた京都固有在来ブドウ品種'聚楽'の復活と新たな利用方法の確立
- 産業関連情報の総合的集約とそれを用いた地域産業情報支援および情報発信産業支援サイトのあり方と活用方策
- 早生樹の活用による森林資源の再造成への挑戦、学校の環境教育の実践
- 京都府産宇治茶の独自性と優位性を確保・発展させるための茶の優良形質に関する遺伝的・栽培生理的研究
- 精華町の里山整備に向けた関連基盤情報の収集と解析ならびに情報共有
- 府立大学で育成した「洛いも」の精華町における特産農産物化に向けた安定生産および総合的な利用技術の開発
- 京都市産木質ペレットの新規用途の開拓と有用性の検証
- 食品ロス削減に向けた社会実験研究—精華町の実態を踏まえた効果的な施策に向けて

宇治市との連携協力包括協定締結

平成30年6月22日、京都府立大学と宇治市は、連携協力包括協定を締結しました。

これまでから、宇治市総合計画審議会をはじめ、歴史、景観、教育、環境等多方面にわたり、本学教員が委員に就任するほか、地域貢献型特別研究（ACTR）を活用した住民の防災活動や茶業関連の研究での連携など、多くの協働活動の実績を積み重ねてきましたが、この協定を機に、「京都府の知の拠点」としての大学の機能を活かし、更なる連携・協力の取り組みを推進します。

今後は、宇治市の幅広い行政課題に応えるため、宇治市植物公園との連携や西小倉地域における地理情報システムを活用した住民協働型のまちづくりの協働研究をはじめ、本学学生の宇治市役所でのインターンシップなどを進める予定です。

京都府立大学ではこれで府内10市町と包括協定を締結したことになりますが、企業や公的機関などとの連携も含め、大学の地域社会への貢献に対する期待がますます高まっています。



COC+教育プログラム

COC+学生チームがプロモーションビデオを作成

京都府立大学COC+*には、「COC+学生チーム」という学生有志のチームがあります。

夏休みに、地域創生COC+教育プログラムの科目である「地域創生フィールド演習」に参加したメンバーが、演習先での様子を動画におさめて、地域をアピールするプロモーションビデオを作成しました。



地域の情報発信等を行う宮津メディアセンターでの演習で、本格的に動画制作と編集を学んだメンバーを中心に、テーマを決め、流れを組み立て、ナレーションを練習し、毎週のように集まり作業をした成果もあって、演習の魅力やおすすめの場所、そして美味しさが伝わる動画を作成することが出来ました。

お互いに自分の体験を伝え合ったり、写真を整理したりと、自らの学びを振り返るきっかけにもなったようで、メンバーはその後も京都府中北部での活動にも興味を持ち続けています。

また、演習のプロモーションビデオは「京都の地域創生」の講義でも紹介し、後輩に演習の魅力を伝えました。

*COC+とは：Center Of Communityの略で、地域で活躍する人材を育成するため、府中北部において農林漁業・六次産業など、様々な分野で活躍する「地（知）の案内人」と協働して、「地域創生COC+教育プログラム」を実施しています。

ビデオはこちらのアドレス、またはQRコードからご覧いただけます。

<http://www.kpu-coc.jp>



宮津市立宮津中学校が本学を訪問

2018年5月23日、京都府立大学に「宮津市立宮津中学校」2年生の生徒さんと先生方約100名がやってきました。宮津中学校の「宮津ふるさと学」という総合的な学習の一環で、「COC+地域創生教育プログラム」を学びに来てくれました。

京都府立大学COC+が中学生の訪問を受けるのは初めてのことです。生徒さんからCOC+の教員と学生に質問がたくさん投げかけられ、例えば「COC+は宮津にどのように貢献しているか」など大人顔負けの質問もありました。

また、学生が作った演習のプロモーションビデオなども見てもらい「府立大学でこんなにも宮津のことが素敵に紹介されているなんて感動した」、「宮津のことも知らないことが多かった」といった感想をいただきました。宮津市をフィールドに、さまざまなCOC+の取組みがあることを学んでもらうことができました。



公開講座・生涯学習

公開講座「桜楓講座（春の部）」を開催

平成30年度公開講座「桜楓講座（春の部）」を6月9日と23日に開催、各回とも110人を超える方に受講いただきました。

9日は、生命環境科学研究科の糟谷信彦助教の講演「中学生も注目！ 早生樹が変える日本の森林の未来」。木材の需要拡大のため、国産広葉樹の活用が検討されている中、近年、特に有用材として、早生樹のセンダンが注目を集めています。当日は、森林の多面的機能や我が国の林業経営の現状をはじめ、早生樹センダンの植栽試験、荒廃農地や家具への活用方法、早生樹の今後の課題についてなど、幅広く解説がありました。

23日は、公共政策学部の川瀬光義教授の講演「地域からみた日本の安全保障政策」。安全保障政策をめぐる、沖縄の多くの人々から「日米安保条約が大切なら、その負担は等しく負うべきでは

- ないか」と問いかけられています。当日は、頻発する米軍関係の事故・事件から垣間見えることについて、在日米軍基地が沖縄に集中している現実とその問題などについて幅広く解説があり、沖縄からみる日本の安全保障政策について考える機会となりました。



早生樹センダン



川瀬先生の講義の様子

演習林野外セミナーの開催—今年は色々ありました!!

1 「大学の森への誘いコース」

毎年、天然スギの緑と広葉樹の紅葉を織り成す秋に実施していましたが、「春の花の季節にも行きたい」との参加者の声も踏まえ、5月12日（土）に久多演習林で開催しました。

すると、応募が募集人員を大きく上回り、セミナーでは初めて抽選を行ったため、参加いただけなかった方には大変申し訳なく思っています。

当日は、参加者47名が3班に分かれて森林科学科教員の解説等を聞き、草花や樹木を学びながら森林を散策しました。



作業小屋前集合写真

今年は例年より草花の開花が10日ほど早く、春開催の難しさを痛感しましたが、晴天に恵まれ新緑がきれいで気持ちよく体験や学びの時間を過ごしていただきました。

2 高校生のための「大学の森・森林科学野外実習コース」

こちらは、オープンキャンパスの関連行事として実施するため、

- 7月23日（月）と決まっていたが、なんと京都市内は開催日を挟み、37度を超える猛暑が13日間続いていた。急遽、熱中症対策のため予定していた大枝演習林から、冷房を完備した学舎がある大野演習林に変更し、野外体験も縮小するなどして実施したところ、それらを直前にお知らせしたにも関わらず、23名の高校生に参加いただきました。



教員による森林作業解説
(100年を超えるスギ)

- とはいえ、暑い一日となりましたので、すこしでも森林の涼を感じられる行程とし、森林科学や演習林への関心を高めていただいたと考えています。

- 今年の野外セミナーは、参加者の抽選や両コースともに気象の変化によって、運営する上で色々なことがありましたが、開かれた大学の施設として演習林を利用いただく機会を今後とも設けていければと考えています。

「スマホで植物園のおすすめ樹木めぐり！」を開催

本学と京都府立植物園は連携・協力して地域貢献活動をしています。最近では、環境教育を推進する目的で、電腦空間に「バーチャル植物園」を構築し、情報発信をしています。平成29年度は、法人の地域未来づくり支援事業の支援を受けて平成30年2月12日に本学第3講義室で「スマホで植物園のおすすめ樹木めぐり！」を開催しました。植物園が制作した「おすすめ樹木」143本のマップを、Strolyというアプリを使って情報発信をしますと、スマホの画面に『おすすめ樹木めぐり！』マップが表示されるとともに、自分の現在位置も表示されます。そして、関心のある樹木の標識をクリックすると、説明文と写真が現れるという仕組みです。当日は約20名の参加者があり、『おすすめ樹木めぐり！』マップについて説明を受けた後、植物園へ移動し、スマホ片手に園内を散策しました。

平成30年度はACTRの支援を受けて、「バーチャル植物園」の内容をさらに拡充しております。毎週金曜日に発行されている「週

- 刊見頃情報」のマップも、Strolyを使って情報発信をしております。是非、スマホ片手に、植物園内の散策を楽しんでください。



京都府立植物園「おすすめ樹木めぐり！」

<https://stro.ly/a/1517548800>

国際京都学

明治150年記念シンポジウム「京都府文化・産業未来への挑戦」の開催

京都府立京都学・歴史館主催、京都府立大学共催により、平成30年に明治維新から150年の節目を迎えることを記念して、京都の未来について、府民の皆様と共に考えるシンポジウム「京都府文化・産業未来への挑戦」が開催されました。



- ◇開催日 平成30年6月3日（日）
- ◇会場 京都府立京都学・歴史館 大ホール
- ◇内容 講演 ①「万城目学作品における京都の取り扱い方」 小説家 万城目学 氏
 ②「木版印刷 京都の仕事」 竹中木版五代目摺師、(有)竹笹堂代表取締役 竹中健司 氏
 ③「京都から拓くものづくりの未来」 (株)クロスエフェクト代表取締役 竹田正俊 氏
- 座談会 登壇者：万城目学 氏、竹中健司 氏、竹田正俊 氏
 コーディネーター：京都府立大学生命環境科学研究科 講師 松田法子
- ◇参加者 300名

当日は、様々な専門家の視点から京都の可能性について御講演をいただいた後、京都の魅力とあるべき未来の京都の姿について議論が交わされました。参加者からは、「違う分野の人からの切り口でお話しが聞けて良かった。」など好評を博しました。

「遊びをせんとや」刊行

文学部日本・中国文学科では、京都府立京都学・歴史館との連携の下、同館所蔵の古典籍をわかりやすく紹介するコラム「遊びをせんとや」を毎月第3土曜日、京都新聞朝刊において連載しておりますが、この度好評につき、2010年4月スタート時からの80回分（2016年10月まで）を一冊にまとめ、タイトルもそのままに『遊びをせんとや』（京都新聞出版センター発行）と題して上梓いたしました。

私たちは2010年に当時の京都府立総合資料館と協力し、「古典の日」を記念して『古典籍へようこそ』（同上）を刊行しまし

- たが、本書はその第二弾となります。
- 本書では日本と中国のさまざまな古典籍が登場していますが、教科書に出てくるようなカタイ本ばかりではなく、娯楽小説やファッション、はたまた手品を解説したようなオモシロ本たちが勢揃いしています。
- 私たちは学科の特性を活かし、今後とも古典籍の発信を通して国際京都学・地域貢献に寄与してまいります。
- どうぞご期待下さい。



京都学ラウンジ ミニ講座の開催

京都府立京都学・歴史館主催、京都府立大学共催により、京都の歴史・文化等を題材としたミニ講座を行い、講師と参加者との交流を図る「京都学ラウンジ ミニ講座 京都府立大学共催特別企画」が開催されました。講座は全5回開催され、京都府立大学の教員、大学院生等が講師となりました。



- ◇開催日 平成30年8月23日から9月20日までの期間 毎週木曜日
- ◇会場 京都府立京都学・歴史館 京都学ラウンジ
- ◇内容 ①「京都に『阿波踊り』があった！？～歴史館の史資料に見る京都の近代史～」 平成29年度大学院文学研究科博士前期課程修了 松村啓一 氏
 ②「室町時代の京都と地方」 大学院文学研究科博士後期課程 川口成人 氏
 ③「海とともに生きた江戸時代の人々～丹後沿岸地域に着目して～」 大学院文学研究科博士後期課程 稲穂将士 氏
 ④「明治初期の産業道路～銀の馬車道の調査」 文学部 教授 菱田哲郎 氏
 ⑤「『さっさよっさ』を探して～近代と戦後、宮津の茶屋町～」 生命環境科学研究科 講師 松田法子 氏

各回、集まれた参加者から熱心な質問をいただき、好評を博しました。

京都府立京都学・歴史館海外若手研究員受入決定

平成30年5月、京都府立京都学・歴史館が実施する海外若手研究員受入事業において、本学から推薦した研究者を含め4名の海外若手研究者を京都学研究員として招聘することが決定されました。研究員は、京都に関する多岐に富んだテーマにより研究を進

- められ、研究の内容を府民の皆様に分かりやすく発表するセミナーも開催される予定です。京都府立大学も、研究員を共同研究員として受け入れ、研究活動のサポートをしていきます。

国際交流

学術交流協定締結の3大学からの来訪

4月から7月にかけて、本学と学術交流協定を締結している海外の3大学から、関係の皆様が来学されました。それぞれの来学時の様子をご紹介します。

国立華僑大学（中国）

平成30年4月18日、本学生命環境科学研究科が交流母体となって学術交流協定を締結している中国の国立華僑大学より関一凡華僑大学書記をはじめとする4名が来学され、今後の学術交流の展望などについての話し合いが持たれました。

また7月13日には王麗霞研究生院長をはじめとする6名が来学され、今後の両大学間での交換留学制度について協議を行いました。

いずれも本学築山学長はじめ生命環境科学研究科の関係教員らとともに有意義な語らいの場となりました。

本学と国立華僑大学とは平成28年に学術交流協定を締結して以来積極的な交流活動を続けており、昨年11月に中国廈門にて協定締結1周年記念のシンポジウムが開催された折には、

本学から3名の教員が発表しました。また昨年度は国立華僑大学からの共同研究員を本学に迎え、半年間にわたり研究に従事いただきました。本年度は秋に本学にてシンポジウムの開催も予定しており、今後、より一層の交流の進展が期待されます。



漢城大学校（韓国）

平成30年5月16日、本学文学部が交流母体となり学術交流協定を締結している漢城大学校より、李相勲漢城大学校総長をはじめとする5名が来学されました。

漢城大学校とは平成27年に部局間協定を締結していましたが、平成29年7月に新たに大学間協定を締結しました。以来、漢城大学校にて開催されている夏期韓国語短期語学研修への本学学生の派遣や、サバティカル休暇を利用した本学教員の滞在・研究などの交流を積極的に行っています。

今回の来訪では、本学築山学長をはじめ、文学部関係教員

との意見交換や今後の交流についての話し合いが持たれ、友好関係を一層深める機会となりました。



西安外国語大学（中国）

平成30年5月23日、本学文学部が交流母体となり学術交流協定を締結している西安外国語大学より、王軍哲学長をはじめとする6名が来学されました。

西安外国語大学とは1982年の国際交流協定の締結以来、定期的な教員・学生の派遣・受け入れを行い現在に至っています。更に昨年より短期中国語学・文化研修プログラムを開始し、8月～9月にかけて本学学生が西安外国語大学に滞在して中国語の語学研修、文化遺産フィールド研修などに取り組んでいます。

今回の来訪では、本学築山学長をはじめ、文学部関係教員

との間で、両大学の35年以上にわたる友好関係を更に深め、交流を進めていくための協議が、和やかな雰囲気の中で行われました。



カナダ ラヴァル大学との交換留学に関する覚書を締結しました

ラヴァル大学とは平成21年の学部間学術交流協定の締結および平成22年の大学間学術交流協定の締結以来、本学生命環境科学研究科森林科学科が中心となって、地球温暖化が地球に及ぼす影響、GIS（地理情報システム）を応用した森林管理、木質資源の有効利用技術の開発、そしてモデルフォレストの研究等について、研究者・学生間の積極的な交流を進めて来ました。

それに加え、昨年より両大学間での交換留学制度の構築

に向けても具体的な協議を行い、本年6月に覚書の締結に至りました。この締結により、今後はまず大学院生を対象にした交換留学プログラム（滞在期間：3ヶ月以上1年未満）を開始する予定です。

ラヴァル大学側もこの新しい交換留学プログラムには大変前向きに取り組んでいただいております。今回の覚書締結を機に、今後も両大学の益々の研究・教育活動の発展が期待されます。

各学部・研究科の取り組み

文学部

詩と音楽

日本・中国文学科 林 香奈 教授

漢詩は、ぱっと見ると何となく意味がとれそうですが、いざ読み解くととなかなか難しいものです。論理的に記される文章の方が読みやすい場合が多いのは、詩は一句五言で四行詩なら二十文字、一句七言で八行詩でも五十六文字で、すべてを言い尽くさなければならぬからです。

短い詩型に効果的にことばをはめ込んでいくために、先人のことばを借用してそこに自らの思いをのせて詠ったり、修辞上や韻律上の規則を設けたり、詩人たちはさまざまな工夫を凝らします。それが文学の変化を生み、私たちを楽しませたり、悩ませたりもするわけです。

さて、そうした詩人、あるいは時代のもたらす変化とは別に、中国の詩についてはもう一つ考えなければならぬことがあります。それは、もともと音楽に合わせて歌われていたものであったということです。戦乱の発生や王朝の交替など理由はいろいろあるでしょうが、詩から音楽は失われていきます。音楽を失った

歌詞は、しだいに文学性が重視されるようになっていきますし、歌われなくなった詩歌に代わって、新しい音楽が新たな文学を生んでいくことにもなります。

私はこれまで、音楽を伴わないものとして詩が詠まればじめるとされている時代の詩人について考えてきましたが、歌わない詩歌と歌う詩歌の差はどこにあるのか、音楽を理解している詩人とそうでない詩人には、創作上何か違いは生まれるのか、など疑問は尽きません。

こうした疑問を解明するために、ここ十数年、他大学の研究者とともに漢魏六朝から隋唐にかけての音楽と文学との関わりや制度の変遷について共同研究をしてきました。写真はその成果の一つです。『隋書』音楽志訳注』和泉書院、2016年。現在は、実際に残されている歌辞を読み解く共同研究に着手したところで、問題が一つでも解ければと思っています。



公共政策学部

持続可能性、社会的包摂、内発的イノベーション

公共政策学科 梅原 豊 准教授

AIやブロックチェーン等の発達、そして人生100年時代の到来、この5～10年で、世界の社会や組織のあり方、人の働き方が大きく変わる時代がくると感じています。そして公共のあり方も……

想定外のことが起こる予測不可能な時代ですが、テクノロジーの加速度的発展と日本社会の人口減少は我々がこれから長期にわたり直面していかなければならない問題です。



高度成長期のように、住民が国や地方自治体に要望し、それをすべて政府が実現していく、まるで自動販売機のボタンを押しさえすれば全てうまくいくというような、おまかせ民主主義の世界はもはや終わりました。

子どもの貧困、高齢者の孤立、中山間地域での生活サービスの提供や移住対策、新し

い技術の地域への移転、社会的企業やシビックエコノミーの育成など、今の地域は課題の宝庫です。課題のどれも、ガバメントとしての政府だけがこれに当たり、解決できる問題ではありません。地域外からかかわる人も含め、住民一人ひとりの力を引き出し、繋ぎ、自治会、NPO、企業、大学、行政など多様な主体が協働・連携し、地域の課題解決力や新しい価値を生み出す力を最大限にし、「持続可能性」、「社会的包摂」、「内発的イノベーション」を持った地域社会を創っていくことが必要です。その方法は一様ではありませんが、人口減少に負けない新しいローカル・ガバナンスのあり方を、京都府職員時代の地域力再生プロジェクトでの実践経験、徳島県神山町や京都府和束町、また海外の先進事例を分析しつつ、今後提示をしていければと考えています。

また、新しいテクノロジーや人生100年時代にあった、新しい公共のあり方についても研究し、知見を広げていき、学生と一緒に考えていけたらと思っています。



生命環境科学研究科

栄養・運動の科学からヘルシーライフ、 ハイパフォーマンスの実現へ

応用生命科学専攻 栄養科学研究室
青井 渉 准教授

2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックに向けて、日本人アスリートの活躍が期待されています。競技で勝つために必要なことは何でしょうか？肉体的に強く、技術が高いことはもちろん、大舞台上で実力を発揮するには精神的にも強いことが要求されます。これらを高いレベルに引き上げるには、日々のトレーニング、休養、そして適切な栄養摂取が必要です。私の専門分野である運動栄養学はそれほど古い学問ではなく、私が学生の頃は、食事に気を配るアスリートは多くありませんでしたが、学問の発展とともに科学的な食べ方が普及してきました。高いパフォーマンスを発揮するには、何を、どれくらい食べるのかはもちろん、いつ、どのように食べるのかについても考えなければならず、食べることだけでも忙しいです。

また、栄養、運動の科学をどのように健康づくりに活かすことができるのかについても研究を行っています。

す。“1に運動 2に食事 しっかり禁煙 最後に薬”（厚生労働省）という標語があるように、食と運動は健康長寿のための柱となる生活習慣です。

食生活の乱れが様々な健康障害を引き起こすことは広く認知されていますが、身体活動不足が死亡に対する危険因子の第4位（世界保健機関）であることは、それほど知られていないのではないのでしょうか。一方、身体活動基準（厚生労働省）には、日常的に運動を行うことで、糖尿病、循環器疾患だけでなく、がんやロコモティブシンドローム、認知症の発症リスクを低減できることが記されています。しかし、このような効果がどのような機序でもたらされるのかについては未知な部分も多く残されています。栄養と運動を一体的にとらえ、様々な手法を使って分子レベルから現場レベルの課題に取り組んでいきます。



生命環境科学研究科

タンパク質の機能をコンピュータで探る

応用生命科学専攻 計算化学研究室
リントゥルオト 正美 准教授

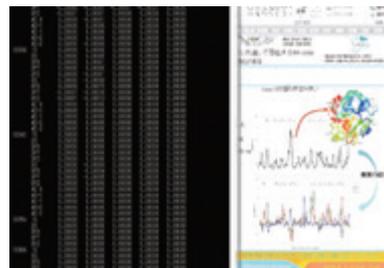
化学というとフラスコやビーカーを使って実験をイメージすることが多いですが、私はコンピューターを用いて研究を進めています。量子化学計算、分子シミュレーションやケモインフォマティクスを含む計算化学はコンピューターの性能の発展に伴い、実験、理論につづく第三の研究手法として確立されてきました。

タンパク質の構造や機能の解明は様々な実験的手法をもとに次々と明らかにされています。しかし、実験では解明が難しい事象についてコンピューター上で対象とするタンパク質や反応系を再現し明らかにすることができます。さらに実験に先立ち計算化学をもとに「予言する」ことが試みられています。創薬の現場では実験に先立ち、新薬の候補のスクリーニングなどで計算化学が活躍しています。

私の研究室では金属を含むタンパク質や遠く離れた部位の構造変化によって機能が変化するタンパク質、表面修飾による機能変化などについて研究を進めています。

まず、対象とする主要なタンパク質は様々なヒトの疾病に関連することが知られており、機能と構造の関連性や反応機構を明らかにすることは非常に重要です。

直接ヒトの疾病とは関連しないタンパク質の研究にも取り組んでいます。プロトン付加によって遠隔の金属から反応サイトの金属への電子移動が引き起こされ、基質の還元反応が起こることを明らかにしました。この研究については英国王立化学会のHP、Metalloomics in Japan web collectionにMetalloomicsのフィールドにおける日本からのbest researchの一つとして紹介されています。直接的な応用や現実的な「何に役にたつのか」だけでなく、小さい原子や分子の移動によって大きなタンパク質の機能が劇的に変化する様がコンピューター上でははっきり見える、膨大な数字から科学的な事象を説明するデータを読み取ったときの喜びが研究の推進力だと思います。



コンピューターで分子軌道の解析をしているところ

受賞情報

生命環境科学研究科
応用生命科学専攻○博士後期課程3回生 加茂 翔伍さん
(機能分子合成化学研究室)

日本化学会第98春季年会において「学生講演賞」受賞

日本化学会第98春季年会(2018)において、「赤色素Juglorubinのワンポット合成(One-pot Synthesis of Juglorubin)」の発表により、学生講演賞を受賞しました。(受賞時:博士後期課程2回生)

生命環境科学研究科
環境科学専攻 / 生命環境学部○博士前期課程2回生 岸 和実さん
(生物材料物性学研究室)平成30年3月博士前期課程修了 大野 未奈さん
(生物材料物性学研究室)博士前期課程2回生 田中 季恵さん
(生物材料物性学研究室)博士前期課程1回生 富田 健さん
(生物材料物性学研究室)平成30年3月生命環境学部森林科学科卒業
山崎 竜也さん(森林資源循環学研究室)

日本木材学会大会において「優秀ポスター賞」受賞

第68回日本木材学会大会(主催:一般社団法人日本木材学会)において、受賞時博士前期課程1回生の岸和実さんが「縦振動法

を用いた原木段階における製材品の簡便な強度等級予測手法に向けた基礎的研究」により、博士前期課程2回生の大野未奈さん、博士前期課程1回生の田中季恵さんが「木材の乾燥割れの機構解明に向けた基礎的研究—乾燥温度及び乾燥速度が破壊形態に及ぼす影響—」により、森林科学科4回生の富田健さんが「サンショウ属樹木におけるトゲの観察—トゲを構成する細胞とその形成過程について—」により、森林科学科4回生の山崎竜也さんが「センドンの樹下植栽と冷温帯に適した早生樹種の検討」により、優秀ポスター賞を受賞しました。

○博士前期課程1回生 長田 拓也さん(建築意匠学研究室)
合同卒業設計展「Diploma×KYOTO」において「審査員賞(辻琢磨賞)」受賞

建築系学科を有する近畿圏22大学による合同卒業設計展「Diploma×KYOTO」(主催:京都建築学生之会)において、「静けさの建築—木とコンクリートによる納骨空間と思索空間の計画—」の作品発表により、「審査員賞(辻琢磨賞)」を受賞しました。(受賞時:生命環境学部4回生)

○環境デザイン学科 宮奥 森伍さん 他15名
木を活かす学生課題コンペティションにおいて「木を活かす学生活動大賞」受賞

平成29年度林野庁補助事業「木を活かす学生課題コンペティション」において、受賞時4回生の淡路谷直季さん、鍵井太貴さん、谷口悠貴さん、平松優生さん、3回生の井上あいさん、田村匠さん、仲田早穂さん、中村優実さん、松本哲弥さん、2回生の白石晃さん、手島悠登さん、長岡真希さん、宮奥森伍さん、1回生の川島史也さん、肝付成美さん、藤井裕美さんが、作品「あつまるま」により、「木を活かす学生活動大賞」を受賞しました。

イベント情報

平成30年度桜楓講座(秋の部) <京都府公立大学法人連続講座>

最近のトピックスを交えながら、本学教員がそれぞれの専門分野についてわかりやすく講義を行います。

・11月4日(日) 10:00~12:00

『大震災と宗教—絵と「社会参加する仏教」—』

講師:文学部准教授 川瀬 貴也

・11月17日(土) 10:00~12:00

『ヘルシーエイジングのすすめ—』

若い頃の食生活が老後を決める!』

講師:生命環境科学研究科教授 南山 幸子

場 所 京都府立京都学・歴史館大ホール
(京都市左京区下鴨半木町1-29)

受 講 料 無料(申込制)

募 集 期 間 11月4日開催...10月31日(水)まで
11月17日開催...11月13日(火)まで申 込 方 法 はがき・FAX・E-mailで、希望するコース(両
コース同時申込可)・住所・氏名(フリガナ)・
連絡先(電話、FAX、E-mailアドレス)をこ
記入のうえ、お申し込みください。申 込 先 〒606-8522(住所記入不要)
京都府立大学 京都地域未来創造センター
TEL/FAX:075-703-5319
E-mail:kirpinfo@kpu.ac.jp

■文学部 日本・中国文学科

講師 藤本 灯

＜主な研究領域＞
日本語学、文献学、古辞書

日本で編纂された漢和字書や国語辞書について、研究しています。それらのうち、特に室町時代ごろまでに成立したものを「古辞書」と呼びますが、古辞書に収録された語彙が、それぞれの時代で、誰によってどのように用いられていたかということや、その辞書が編纂された文化的背景といったことに、特に関心を抱いています。日本文学や日本史学、中国語とも密接に関わっている領域のため、様々な専門知識を持つ研究者と連携して研究を進めていきたいと考えています。

■文学部 日本・中国文学科

准教授 本井 牧子

＜主な研究領域＞
日本宗教文芸

宗教文芸において語られる「おはなし」（説話・物語）を、多角的に読み解くことを目指しています。たとえば京都の神社仏閣には、語り継がれ、現代にまで伝わるさまざまな「おはなし」があります。神仏の靈験や、寺社の縁起、歴史を語るこれらの「おはなし」は、文字による記録だけでなく、法会（セレモニー）という場、絵画などのメディア等を通して、さまざまに展開してきたものです。そういった「おはなし」の軌跡を、丁寧にたどりたいたいと思っています。

■文学部 欧米言語文化学科

准教授 桐山 恵子

＜主な研究領域＞
舞踊と文学、ヴィクトリア朝小説



クラシックバレエが趣味で、学生時代は社交ダンス・サークル所属で競技会にも出場していました。研究対象は19世紀イギリス文学ですが、ダンスの知識を生かして、作品内の舞踏表象を考察したり、英国ミュージックホールで上演されたバレエ作品について調べたりしています。また文学が観光に果たす役割を研究する、リテラリー・ツーリズムにも関心があります。京都生まれ、京都育ちの宝塚ファンです。どうぞよろしくお願いいたします。

■文学部 歴史学科

講師 本庄 総子

＜主な研究領域＞
日本古代史

古代日本における行財政の研究をしてきました。古代史は史料の絶対数が少ないため、自身の研究分野だけに閉じこもっている、新しい展望を開くことが難しい学問領域です。従いまして、時間・空間を異にする文献史学（中世以降の日本史、東洋史・西洋史など）の研究成果に学びつつ、考古学・文学などの隣接分野はもちろん、全く専門を異にする方々とも交流し、京都府立大学という恵まれた研究環境を生かしていきたいと考えています。

■文学部 歴史学科

准教授 諫早 直人

＜主な研究領域＞
東北アジア考古学



古代中国から東夷と呼ばれた中国東北部から日本列島にかけての東北アジア諸地域は、相互に密接な関係をもちながらもそれぞれ独自の文化を育み、3～7世紀に相次いで古代国家を成立させました。わたしはこの時期に海を越えて日本列島にまで伝播した騎馬文化を中心に、東北アジア諸地域の古代国家形成に果たした相互交渉の役割について考古学の立場から研究を進めてきました。今後も様々な出土資料を用いて、双方向性をもった地域間交流の実態を浮き彫りにしていければと考えております。

■公共政策学部 公共政策学科

准教授 梅原 豊

＜主な研究領域＞
公共政策、地域デザイン、
多様な主体との協働



京都府の地方公務員をしていましたが、4月から本大学にお世話になっております。若い頃は国際交流の仕事をしていましたが、早稲田大学大学院公共経営研究科で学ぶ機会もあり、近年は行政の公共経営やNPOの支援、地域力再生、地域と行政の協働の仕事を、更にはオープンデータやAI等の行政事務や地域課題への活用も担当していました。「理論なき実践は暴挙」、「実践なき理論は空虚」、課題はいつも現場から発生します。地域の課題にいち早く共感できるマインドと、効果的に対応できるスキルを持った公共の人材づくりを進め、学生のみなさんと一緒に学んでいきたいと思っています。

■生命環境科学研究科

応用生命科学専攻
教授 岩崎 有作

＜主な研究領域＞
生理学
(摂食調節、代謝学、神経科学)



世界規模で増加し続けている肥満の成因は「過食」です。日本は超高齢化社会に突入しましたが、高齢者の「食欲不振」は心身の活動を低下させ、筋萎縮症や認知症の発症率を増加させます。しかし、摂食異常（過食、拒食）に有効な治療薬は未だありません。本研究では、全身情報を脳に伝達する求心性迷走神経（内臓感覚神経の1種）に注目し、本神経の生理的意義を解明し、本神経を利用した摂食・代謝調節異常改善薬（機能性食品）の開発を目指します。

■生命環境科学研究科

応用生命科学専攻
助教 谷口 祐一

＜主な研究領域＞
健康科学



内臓脂肪の蓄積が生活習慣病のリスクにつながる事が知られている一方で、お腹周りの脂肪が増えていくメカニズムや、その予防方法については十分な知見が得られていません。これまでに、持久性運動や栄養素がお腹周りの脂肪を減らす作用に着目し、そのメカニズムについて検証を行ってきました。今後も、内臓脂肪型肥満を効果的に予防・改善させる手法を明らかにすることで、疾病予防に役立つ知見を得ていきたいと考えています。

■生命環境科学研究科

環境科学専攻
助教 細谷 隆史

＜主な研究領域＞
生物材料利用化学



再生可能資源としての木材を、石油の代替燃料や化学製品の原料として有効利用することは、昨今の地球環境問題を解決する上で非常に重要です。私は、そのような木材の有効利用に関する基礎的知見を得る目的で、木材やそこに含まれる主要構成成分の、様々な化学的条件における分子レベルでの反応機構の解明を行っています。また、得られた反応機構をベースに、木材の新たな利用法の開発も行っています。